

# 学級経営・授業経営 領域

2023年度入学者選抜試験案内



## 学級経営・授業経営領域の特徴

本領域は、学級経営の指導力と各教科の指導力を身に付け、それらを車の両輪のごとく専門職としての総合指導力の向上を目指し、学力向上、特別支援教育、アクティブ・ラーニング、いじめ問題等、教育の今日的課題を解決する力を付けることを目的とした領域です。

学校課題に即した実践研究の成果を学校現場で活かすことができます。

## 教育課題解決能力

個別最適化した学び、ICT教育、特別支援教育、アクティブ・ラーニング  
カリキュラム・マネジメント、いじめ、不登校、道徳教育、and so on……

### 総合的指導力



学び続ける教師

### 目次

- 本領域で学べること  
……………p2, 3
- 修了生、在学院生の声  
……………p4
- 大学生のみなさんへ  
……………p5
- 現職教員のみなさんへ  
……………p6
- 出身学校、教育委員会の声  
……………p7
- スタッフ、入試日程紹介  
……………p8

本領域では学級経営と教科指導を分離せず、教科学習の時間で学級経営を行い、その基礎の上に特活等での学級経営を行います。そのような学級経営と教科指導の融合する授業経営を学びます。

スタッフに聞いてみた！？  
どんなことが学べるの？

## 学級経営

こんなこと  あんなこと

## 授業経営

from 大島崇行

### 学級経営と融合した授業実践の追究を！

協働的な学習を機能させる基盤には学習者の思いや願い、そして学習者間の良好な人間関係があります。また、協働的な学習を実践していると自然と人間関係も深まっていきます。学級経営と授業経営とを分けて考えるのではなく、相互補完のもの、融合するものと捉え実践することで子どもたちの学びをより豊かにしていけるのです。ぜひ、一緒に学級経営と融合した授業実践を追究する先生を目指しましょう！

from 赤坂真二

### 学級経営の充実を目指して

これからの学級経営は、単に落ち着いていて安定していればいいというわけではありません。従来の安定性に加えて、子どもたちが自ら問題解決に取り組む主体性と一人一人が互いを認め合うソーシャルインクルージョンを実現する受容性が求められています。リーダーシップ、目標設定、動機付け、信頼関係づくり、授業づくり、学級のアセスメントなど、学びの基盤となる学級経営について共に学びませんか。

from 片桐史裕

### 教科学習で、学習者の「生きる力」を開発する



国語科授業では「言葉による見方・考え方」の確立が求められます。言葉を知ることにより、世の中を知り、言葉によって人間関係を構築し、心を動かし、自分自身を言葉によって理解していきます。こんな「生きるために必要な力」を「言葉による見方・考え方」で付けていく授業経営を考えて行きます。

from 阿部隆幸

### 日常生活の文脈と授業をつなぐ学級経営

人口減少社会で一人ひとりの命がより大切になる中、多様な生き方を認めあい、各自の幸せを応援しあえる社会を思い描きます。そのためには従来に見られた閉じられた学校の中だけで通用する「あり方」「考え方」「進め方」を変容させて、日常生活の文脈を授業や学校教育活動の中に取り入れていく視点が必要です。現実と学校を継ぎ目や段差なくつなげていく実践をしていく中で、よりよい授業とは学級とは何かを考えていきましょう。

from 河野麻沙美

### 視野を広げ、思考を深め、知を高め合う学習コミュニティ

学び手は、いろいろな教科での学びを通して、様々な考え方や異なる視点に出会います。

対話によって、自らの考え方を深めたり、見直したりすることだけでなく、学ぶ仲間の中で価値ある知を生み出したり、相互で出しあった知を組み合わせたりして高め合うことができるのです。学級は、学び手が安心して、自らと仲間新たな価値ある知を生み出す学習コミュニティです。教師も学び手の知の創出のために協働します。

教員採用試験に合格することは大切ですが、同時に、採用後に辞めない力も必要です。これは現職教員も同様です。その力とは、年齢の異なる人と**繋がる力**です。本領域では**繋がる力**を獲得できます。

from 桐生 徹

### 学級経営と理科授業の融合を目指して、何を大切にしたらよいのか

教科担任で、思うような授業ができていないとき、学級のセイにはしていないか。学級という集団で子どもが活動するいかなる事柄でも、学級担任として、教科担任として、受け持った学級をよりよい集団へ導く責任がある。だから、理科の中で道徳内容や他教科内容も取り入れ、人間関係の構築も理科の中で取り組む。授業経営は学級経営に他ならない。決して「学級がよくなければよい授業ができない」というフィルターをもたないことだ。

from 西川 純

### アクティブ・ラーニングとは学級経営と教科指導が融合した授業経営です

「一人も見捨てないことは得（徳ではありません）である」ことを子ども達に理解させることによって、本当のアクティブ・ラーニングを実現します。その理論と実践論は学校段階（小学校、中学校、高等学校）、教科（国語、算数、数学、理科、社会、音楽、図工、美術、体育、技術、家庭科、道徳）に依存せず普遍的で、毎日の教科指導を通して、徹底的に学級の凝縮力を高め、凝縮力のある学級の力で、全員の学力を向上します。

from 佐藤多佳子

### 自己形成のための国語科授業マネジメント

生きてはたらくことばの力をつけるためには、学習者が自らのもっている経験や知識を総動員して解決するような「学習課題」や「問い」が必要です。そこには必然的に学びに向かう主体性と対話が生まれ、お互いを分かり合おうとする深い人間関係が築かれます。言葉と他者を通して自己形成を促すのが国語科の役割です。そのためには、教科の本質に根ざした教材分析、教材と学習者の実態をつなぐ授業マネジメントが重要な鍵となります。

from 早川裕隆

### 信頼関係や温かい人間関係を基盤とする道徳科の指導や道徳教育が学べます！

道徳授業を単なるしつけと思い込んでいませんか？本来の道徳科は、よりよい生き方について子供達同士が互いに語り合い交流し合うことで、理解や考え方が深まるもの。つまり、何が大切なのか、なぜ大切なのか、どう生きるのか、内面的資質を高める道徳科と、温かな人間関係を基盤とする学級経営とは、切っても切り離せないもの。道徳科の充実が豊かな学級風土を育み、信頼関係に基づく学級経営が、内面の自覚を促すのです。

from 榊原範久

### ICTを活用して、一歩先ゆく授業実践・学級経営が学べる

学校のICT環境は大きく変化しました。1人1台の端末、大型液晶テレビ、高速・大容量の通信ネットワークが設置され、皆さんがかつて学んだ教室とは異なる風景が広がっています。しかし、教師がそれらを生かすICT活用指導力を身につけなければ、授業実践も学級経営も変わりません。本領域では多くの先生からICTを活用するスキルや授業実践、学級経営に活用する術が学べます。さあ、ICTも活用して、新しい時代の教師を目指しませんか。

from 水落芳明

### 授業で学級をつくる

「みんなで助け合うことが大切」としながら、授業では「1人で考えること」が大事!!という実践を見かけることがあります。気持ちはわかりますが、子どもたちが、登校してから下校するまでの多くは、授業(教科学習)の時間です。授業の中で人間関係をつくり、学級づくりをしていくことが大切です。それを実現する学習デザインを、先行研究の成果を基に学び、みんなと一緒に実践研究し、効果を検証できる先生と一緒に目指しましょう！

### 高橋一哉さん（村上市立村上東中学校教頭 2015年度修了）

私は、CST（コア・サイエンス・ティーチャー）の認定を受けるため上越教育大学教職大学院に進学しました。進学にあたって、所属するコースをどこにするか迷いました。理科コースへの進学が順当でしょうが、理科センターでの研修を担当するためには、理科の知識だけでなく、受講者の校種や経験等の理解や学校経営的な視野も必要かと考えました。そこで、教職大学院で理科の専門的な学びはもちろんのこと、校内授業研究の運営や方略検討・教育委員会との連携した研修システムの構築、理科の学会での発表等幅広く活躍しているゼミ内容から研究室を決めました。

CSTとなりセンターの協力員として、教職大学院の学びを具体的に発揮して研修を企画・運営することに役立ちました。CSTの認定を受けるみなさんぜひ当領域を選択しましょう。

### 上月康弘さん（松本大学教育学部専任講師 2017年度修了）

本学に学ぶ前に、研究会等で国語科の授業を公開する機会がありました。先進的な実践を求められる一方で、教材研究や言語能力にかかわる理論的な知識が不足していることに不安がありました。そこで理論と実践を融合した学びができる本学への進学を決定しました。国語科のゼミに所属し、まずは「読むこと」に関する専門的な文献を読みあさりました。また、先生や仲間と議論することで、読むことのメカニズムが少しずつ理解できるようになりました。すると、自ずから授業実践で大事にすべきことや教材の要点がつかめるようになり学習デザインの方法が自分の中で整理されていくのを感じました。学校支援プロジェクトで、それを実際の場面に適用し、実際の子どもの姿で検証し、学会で発表したり、学会誌に投稿したり、また、本を執筆したりする機会を得ました。現在は、大学教員になりましたが、今でもゼミの先生や仲間を支えられています。私の教員人生の中でもとても貴重な2年間でした。

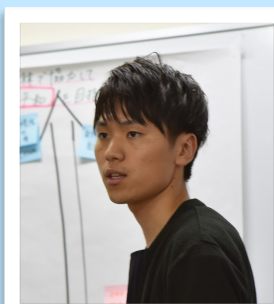
## 在学院生からのひとこと



### 加藤 和さん

（2021年入学・福島県出身 教育職員免許取得プログラム・新規）

競泳選手としてロンドンオリンピックに出場した後、民間企業に勤めながら子どもたちに「夢を持つことの大切さ」について話す機会が度々ありました。このような体験をさせていただく中で、子どもたちと共に学び高めあえる教員になりたいと考え本学へ進学し現在二つ目の私自身の夢を叶えるために学んでいます。本学の教職大学院では、教員免許を持たない学生を受け入れてくれることも進学の決意を促してくれました。現在、研究室の仲間と共に主に教科教育と学級経営について実践的な学びを通して、充実した日々を送っています。



### 村上寛太さん

（2021年入学・富山県小学校教諭合格 名簿搭載期間延長）

私は大学在学中に教員採用試験に合格しました。しかし、大学時代は学級経営について学ぶ機会は少なく、このまま学校現場に出た場合、子どもに寄り添い、子どもを第一に考え続けることは難しいのではないかと考えました。学級経営を深く学び研究し、その不安を払拭するため上越教育大学教職大学院への進学を決めました。現場経験の豊富な先生方から知識を吸収し、現職教員の方と協働しながら実践経験を積むことで、子どもの事を第一に考えることのできる教員になれるよう、2年間学び続けます。



### 久保 順さん

（2021年入学・青森県公立小学校教諭）

変化の激しい未来を生きる子供たちに、多様な他者と協働できる力を育む手立てについて、実践と学術を融合させながら探りたいと思っていました。また、教員である自分自身も協働力を高める必要性を感じていました。そんな時、本学では、現職派遣教員とストレート生が協働して、様々な課題解決に臨んでいることを知り、進学の意志を固めました。本学は、実践知と理論知を兼ね備えた教授陣と校種・世代を超えた仲間と共に探求ができます。学び続けたい教員にとって、最適な場だと実感しています。

## 高い就職率！

修了年	小学校 (人)	中学校 (人)	義務教育 学校 (人)	高等学校 (人)	その他 (人)	内臨時 (人)	%
2021	30	7	0	5	0	7	98
2020	22	8	0	1	1	4	97
2019	14	7	1	2	4	10	90
2018	26	5	0	2	2	10	100

※現職派遣院生を除く。

## 教員採用試験を有利に！

### ▶ 違う校種の免許を取りましょう！

- ・ 教員免許取得プログラムに登録すれば、受講料なしで免許状取得に必要な単位や実習を受けることができます。
- ・ 小学校の免許が取得できる数少ない大学院です。

### ▶ 教員採用試験の一次免除制度の利用ができます

#### 2022年度実施公立学校教員採用試験における大学推薦実施機関（一部）

実施機関	募集校種等	推薦人数制限	1次選考の対応
埼玉県	小中高特定教科	各1～2	免除
さいたま市	小	1	免除
東京都	小中高特定教科	なし	書類選考により教職教養試験が免除
神奈川県	全校種	なし	大学からの推薦書、在学時の成績及び課題論文による選考
横浜市	小中高特定教科	各1～2	書類選考により教科専門試験及び一般教養・教職専門試験が免除
新潟県	全校種	なし	書類選考により筆頭検査Ⅰが免除
新潟市	全校種	なし	免除、中高特定教科は実技検査を実施
長野県	小中	6	書類審査、筆記試験及び適性検査を実施
愛知県	中高特定教科	1	10点加点
富山県	小中高特定教科	各2～3	免除
京都府	小中高特支学校	各2	書類審査により筆記試験の教職教養が免除
大阪市	幼小中養	5	書類審査及び小論文等の審査を受け免除

この他にも、まだあります！詳しくは希望する自治体にお問い合わせください。

### ▶ 名簿搭載期間延長制度も利用できます

- ・ 合格しても、修了まで採用を待ってくれる制度で、合格すれば2年生の大学院授業料は半額免除になります。
- ・ 1年次に教員採用試験を受験することも可能な自治体もあります。

#### 2020年度実施教員採用試験における教職大学院修了見込み者等の特例措置（名簿搭載期間延長・一部）

##### 自治体名

宮城県	群馬県	神奈川県	滋賀県	岡山県	和歌山県	千葉市	浜松市
福島県	埼玉県	新潟県	京都府	広島県	鳥取県	横浜市	新潟市
茨城県	千葉県	岐阜県	兵庫県	北海道	仙台市	川崎市	大阪市

この他にも、まだまだあります！最新情報や詳細は以下のURLを参照してください。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/senkou/1243158\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1243158_00001.htm)

## 実践研究をしたい現職教員のみなさんへ

本領域の特徴は、ほとんどの教員が小中高の教員の経験があり、学術研究の業績を持っているということです。つまり、実践を理論化し、それを実践に還元する業績を上げ続けています！

実践だけでなく、研究だけでなく、実践研究のできるコースです。

### 院生の発表した学術論文

最近、5年間に発表した学術論文の総数は50編以上です。

#### 「論文名」、掲載誌、筆者名、発表年

「歴史日記」の実践が生徒の歴史的思考力に及ぼす効果の事例的検証, 社会科教育研究, 細貝采可ほか, 2022
Web情報に対する評価を用いてメディア・リテラシーを育成する学習教材の開発と評価ー中学校社会科歴史的分野を事例にー, 日本教育工学会論文誌, 佐藤真大ほか, 2022
Scratchプロジェクト開発によるプログラミング教育の実践と評価ー空間認識力の向上に向けた取組を通してー, 臨床教科教育学会誌, 桐原一輝ほか, 2022
テキストを自身で意味づける行為が読みの形成に与える影響ー村上春樹「鏡」, 国語科学習デザイン学会誌, 渡邊尊仁, 2022
協同的な省察において教師の学びは如何につくられるのかー反省的实践家としての教師の成長をめざしてー, 日本学級経営学会誌, 上條正太郎ほか, 2022
自己評価ポートフォリオの活用が学習者の交流に与える効果に関する事例的研究ー抽出児のプロトコル分析を通してー, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 秋山佳樹ほか, 2022
学習者による継続的なルーブリックの利用に関する事例的研究ー教科学習で涵養されるコミュニケーション力の育成を通してー, 日本教科教育学会誌, 小林龍柱ほか, 2021
校内授業研究における研究主題と理科授業検討会の関連についての事例的研究, 理科教育学研究, 佐藤吉史ほか, 2021
「個に応じた学び」を保障する学習デザインが英語の音読技能の向上に与える効果について, 日本教育工学会論文誌, 村山隆, 2021
ICTを活用して他者への教授を目標に設定した映像教材制作活動が学習者の学習内容理解と情報活用能力に与える効果の検証, 臨床教科教育学会誌, 遠藤学ほか, 2021

### 院生の発表した実践図書

最近、5年間に発表した実践図書の総数は40編以上です。

#### 「図書名」、出版社、筆者名、発表年

続・その問いは、文学の授業をデザインする 中学校国語, 明治図書, 藤澤義訓ほか, 2022
続・その問いは、文学の授業をデザインする 高等学校国語科, 明治図書, 渡邊尊仁ほか, 2022
『学び合い』が機能する学級経営, 学事出版, 前田考司ほか, 2021
子どもが「学び合う」オンライン授業 学陽書房, 佐藤剛ほか, 2020
Society5.0に向けた進路指導 個別最適化時代をどう生きるか, 明治図書, 網代涼佑, 2020
道徳教育の理論と実践, ミネルヴァ書房, 北川沙織ほか, 2020
その問いは文学の授業をデザインする, 明治図書, 牧周民ほか, 2020
これで、小学校外国語の『学び合い』は成功する!, 学事出版, 遠山司ほか, 2018
保護者を味方にする教師の心得(学級を最高のチームにする極意), 明治図書, 岡田順子ほか, 2017

## 進学を勧めてよかった！ 出身学校の先生方の声

### 秋田公立美術大学

大学院教授（副学長） 毛内嘉威

本学は、平成27年度に上越教育大学と連携・協力に関する協定を締結しました。それ以来、毎年、上越教育大学を訪問しています。教職大学院に進学した卒業生とも交流していますが、充実した学生生活に話が及びます。それは、教員の専門性と懇切丁寧な指導、現職教員も含めたよき仲間・教育環境でした。そして、何と言っても「教育職員免許取得プログラム」の充実、教員採用試験対策が、上越教育大学に進学してよかったの声につながっています。

卒業生の一人は小学校教員免許状と社会科の教員免許状（美術と併せダブル免許）を取得し、教職大学院2年次に高知県の教員採用試験に合格しました。その彼が「ようこそ先輩」の授業で、美大の教職課程の学生に上教大の魅力を伝えた影響もあり、教職大学院に、毎年複数人が進学しています。

現在、本学の教職関連科目の授業には、貴領域の先生方にも、講師として関わって頂いています。その中でも、専門性の深さ、教員各々の魅力や人間性が伝わりますが、実際に進学することによって、更に大きな学びがあり、実践的指導力が身に付くものと思っています。

### 東京女子体育大学

教授（教務部長） 小林福太郎

本学の建学の精神は、「心身ともに健全で、質素で誠実、礼儀正しい女子体育指導者の育成」であり、教員を目指す学生の比率は他大学に比べて高いといえます。在学中、多くの学生がクラブ活動に熱心に取り組み、勉学との両立を目指していますが、さらに教職課程を履修して教員採用試験の合格を果たすことは至難の業といえます。しかし、スポーツと勉学に全力で取り組んだ本学の学生には、少なからず教員として大切な人間性の基盤が築かれています。その基盤を生かして、卒業後に教員として求められている資質・能力を教職大学院において実践面・理論面の双方から着実に身につけていくことは極めて有意義であり、教員として真に社会に貢献できる可能性が確実に広がります。

本年も9名の卒業生が貴学で学んでいます。これまで進学した卒業生は全員教員になって全国各地で頑張っています。本学では今後とも連携協定締結校として、本気で教員を目指す学生に貴学への進学を積極的に薦めてまいります。

## 派遣してよかった！ 教育機関の声

- ・ 学校という組織を考える上で、(校種の違う実習を含めた)実習を通じて、今までと違う視点からとらえることができているね。
- ・ (派遣している院生達から)自らの専門性を高めることができうれしいなど、非常に前向きな意見をたくさん聞くことができました。この派遣の充実ぶりを裏付けるものと考えています。
- ・ 画期的な学校実習によって、外部の力を借りることで大きく問題解決を進めることができていると思うので、ぜひ続けていっていただきたいです。
- ・ 教員のミドル層や、実際の今の管理職の先生方に具体的にどう支援していくかというところも、大学のお力をお借りしたいと思っています。
- ・ 30代前後といった先生が教職大学院や大学院であらためて学び直す、実際の学校の中でのいろいろな課題や事例に沿って専門性を高めていくニーズは、かなり強いと感じます。
- ・ 本県としましてはやはりミドルリーダー的な存在になってほしいと思います。戻ってきたらまずは現場でミドルリーダーとして力を発揮してもらって、そこから主幹教諭、やがては教頭、管理職にどんどん育てていきたいと考えているところです。
- ・ 教職大学院を出て資質・能力を高めた先生方をたくさん養成したいと思っています。

## スタッフ紹介



赤坂真二 akasaka@juen.ac.jp

元小学校教師。学級経営，生徒指導，教育相談，教師の指導力育成，学校改善を担当。学校心理士。日本学級経営学会共同代表理事。



榊原範久 norihisa@juen.ac.jp

元小学校教師・中学校教師・日本人学校教師。社会科教育，ICT活用を研究。博士課程講義担当准教授。博士（学校教育学）。



阿部隆幸 abetaka@juen.ac.jp

元小学校教師。「授業づくり」と「学級づくり」が興味を中心。日本学級経営学会代表理事。授業づくりネットワーク副代表。修士（教育学）。



佐藤多佳子 takako@juen.ac.jp

元小学校教師。国語科の学習デザイン研究。特に教材の本質を捉えた分析・研究，学習者に寄り添う単元開発等。博士（学校教育学）。



大島崇行 oshima@juen.ac.jp

元小・中学校教師。ICTに支援された協働的な授業設計研究，学生・教師の学び研究。博士（学校教育学）。



西川純 jun@iamjun.com

元高校教師。教科学習を軸とした学級経営・学校運営に関する研究・教育を担当。博士（学校教育学）。



片桐史裕 katagiri@juen.ac.jp

元高校国語科教師。国語科授業デザイン，古典授業の改善，音声言語表現活動，高校学級経営，専門高校教育などを研究しています。



早川裕隆 hayakawa@juen.ac.jp

元小学校教師・児童福祉司。指導法を中心とした道徳科や道徳教育を研究。文科省教科用図書検定調査審議会臨時委員。



河野麻沙美 masami@juen.ac.jp

教育方法学，授業研究，学習科学を専門とし，授業分析と学校の「授業研究」の国際比較研究等を研究している。博士（教育学）。



水落芳明 mizuochi@juen.ac.jp

元小学校教師・中学校教師。学術研究に基づく授業づくりを研究。博士課程研究指導担当教授。博士（学校教育学）。



桐生徹 kiryu@juen.ac.jp

附属中学校長，元中学校教師・指導主事。理科教育学，CST養成，授業参観等の研究。博士課程講義担当教授，博士（学校教育学）。

さらに，上越での学生生活（生活費など），入学金・授業料の免除，奨学金，コア・サイエンスティーチャー養成プログラム事業，1年制プログラムのことを知りたいときは右のQRコードからジャンプしてください。pdf資料を閲覧，ダウンロードできます。



## 令和5年度入試日程

前期募集	インターネット出願登録期間	令和4年 7月 8日（金）～ 7月20日（水）
	出願期間	令和4年 7月 8日（金）～ 7月22日（金）
	試験日	令和4年 8月26日（金）
中期募集	インターネット出願登録期間	令和4年10月17日（月）～ 10月24日（月）
	出願期間	令和4年10月17日（月）～ 10月26日（水）
	試験日	令和4年11月26日（土）
後期募集	インターネット出願登録期間	令和5年 1月24日（火）～ 1月31日（火）
	出願期間	令和5年 1月24日（火）～ 2月 2日（木）
	試験日	令和5年 3月 2日（木）

※出願状況によっては，上記の試験日の翌日にも試験を行う場合があります。詳細については，本学ホームページを御覧ください。